

設置の趣旨・必要性

文化と諸現象の錯綜

- 21世紀の「多文化社会」では、文化と諸現象（政治、経済、社会、歴史、科学・技術などの現象）が相互に影響を及ぼし共変している
- 超域的に形成された諸問題に対して、**既存の学問的分業では社会的要請への対応が困難**

既存の学問領域の限界

- 多文化社会的状況における諸問題の専門的解決には、専門知の超域的活用の受け皿となる新たな学問的枠組みの構築が必要
- 人文社会科学系の学問が本来有する力が十分に活かし切れていない教育状況

多文化社会的状況が求める人材

- 人文社会科学系の「**超域的**」かつ「**俯瞰的**」な専門知（**多文化社会学**）を有する人材
- 知のスペシャリストとして、諸問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことのできる人材

特色ある教育（専任教員：28名）

多文化社会学の超域的・俯瞰的な深化

- 存在論・認識論・方法論の問い直しという哲学的土台に踏み込んだ**基盤必修科目群**の実施
- **人文社会科学が本来持つ問題解決能力（批判力・構想力・実践力）**を涵養



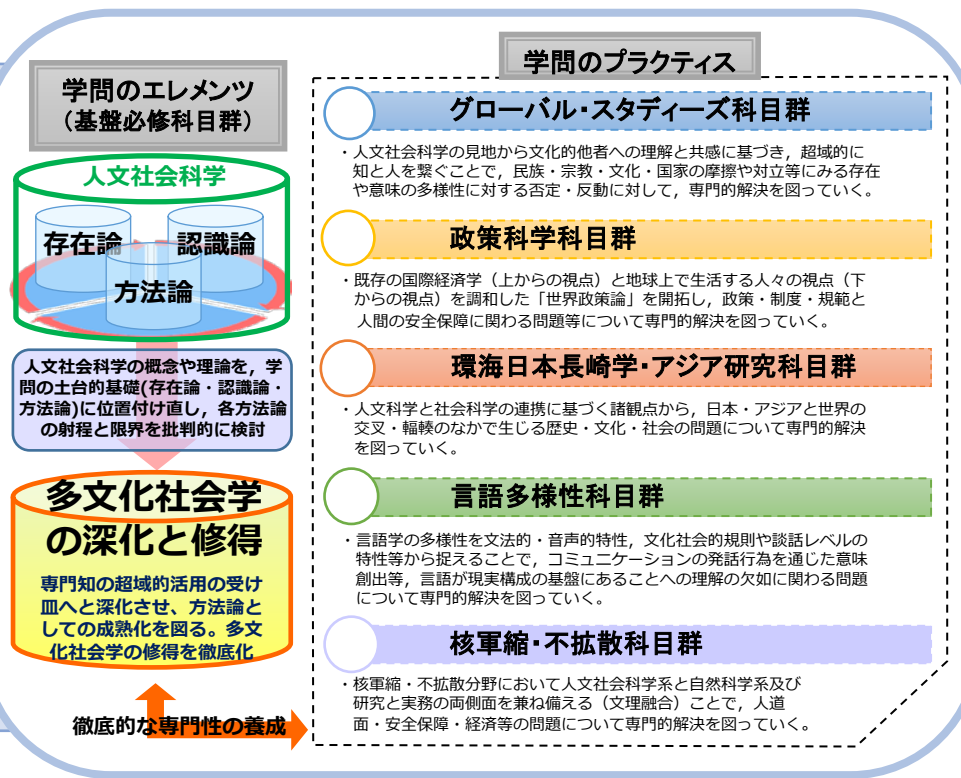
海外での多彩なフィールドワーク等の実践

- 文化的かつ言語的他者とのコンタクトやインタラクションを通じた、**卓越した語学力や情報収集分析力**の涵養
- 多様性や環境への認識、文化や他者への共感の深化



世界トップクラスの専門図書館等との連携

- 東洋文庫、国立歴史民俗博物館等の特有の専門知を有する研究者からの指導
- 国際ネットワークを生かした**オリエンタルスタディーズ**分野の世界的リーダーを養成



養成する人材像・就職先

養成する人材像

21世紀社会の多文化社会的状況における諸問題に対して、文化的他者への理解や共感を第一義に据えて多様な文化や社会、理念や利害を洞察でき、自らが有する確かな専門知とともに異なる専門知をも横断的に繋ぎつつ、多文化社会学の超域的かつ俯瞰的な見地から問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことができる人材

想定される就職先

- 商社・食品・製造等のグローバル企業
- 国際機関、シンクタンク、国際NGO
- 編集者、記者、アナリスト(国際社会問題等)

入学試験

入学試験情報

- 入学定員：10名（修士課程）
- 実施時期：H29.11月、H30.2月
- 試験科目(一般)：専門科目、英語、面接
- 修得学位：修士(学術) Master of Arts